Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

幼児集団指導の研究

お茶の水女子大学
魚住智子

人間は関係的存在であり、人間の生活は、自己と人と物とが接在共存して発展する。社会との関係では、関係自発的な個によって担われている各集団の運動が、接在共存状況を創り続けることにおいて展開する。

保育者は、保育場面における保育者と幼児との集団およびその活動が、どのような社会状況におけるものであるか、その社会状況との関係を明確化（構造化）し、自己のあり方をつくっていかなければならない。

児童集団研究会の活動では、子どもの集団、母親集団、指導者集団の3つの集団が出会って展開する活動がおこなわれている。その活動に関して、社会状況との関係の明確化を課題とするとき、次のような観点からの研究が重要である。

1. 他集団との出会いにおいて成立する保育者の集団認識の変化、及び集団間関係における指導技法の発見。
2. 他集団と展開する自集団（各集団）活動における新たな活動（集団構成員の変化においてとらえることのできること，ほか）
3. 母親集団における母親の認識・態度の変化、それが家族、地域社会においてどのような関係の変化をもたらすか。

集団間の出会いの活動として、児童集団研究会での活動では、植物園への遠足、プレイルームでの体育遊びが用意された。※

（1）植物園への遠足の活動　全体のLiとして参加

活動の特色（状況 人一人）の活動

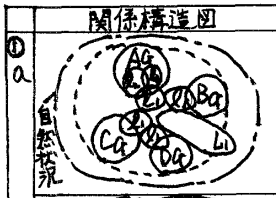
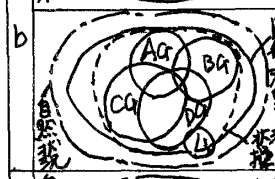
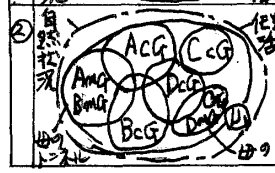
活動の経過

1. 各集団それぞれが出合い、自集団確立の活動をする。
2. 各集団の成員であることを明確にする物（物につける同色のリボン，帽など）で集団枠を明確にし、外接的に出合う。（各集団の紹介をする。）
3. 各集団は、それぞれのコースを通って遠足活動を展開する。時々、外接的（他集団を見るなど）接在的（「オーイ」と呼び合い，「オーイ」と答え合う，など）集団活動をおこなう。
4. 各集団が出合い統合活動をする。

①各集団は、風船になり出合う。いくつかの風船が1つの大きな風船になり、風船活動をする。ぐるぐるまわる，大きくなる、小さくなる．（風が吹くなど，状況操作）b

②子ども集団は各集団でイモ虫になり、4つのイモ虫が力働的に活動を展開、母親集団は、各集団で、トンネル、リをつくり、イモ虫活動の方向を明確にしたり、内容促進活動を。

［4段階の考察］

	関係構造図	考察
① a		植物園の自然状況につつまれ、各集団の風船活動。Liは、各集団の活動をとらえながら、運動方向を明確にする。
b		各集団枠がありながら、風船活動Li，力動運動をねらいとし、風を吹かせる状況操作、全体集団が動く。
②		子ども集団は自集団運動を展開しながら他集団運動と出合う。母親集団は2つの集団が出合う場面構成的役割をとり、集団統合の促進。Li，母G活動を知らせ、運動方向明確

Liとして参加しての集団認識の変化

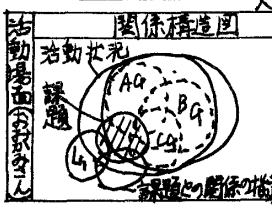
各集団が運動体としてとらえられる，運動体としての集団を関係的にとらえる，運動間の関係を構造化し、接在共存状況明確化を考える。

集団間関係における指導技法 —— 状況操作の技法

自集団の変化 —— 自集団が明確化，活動が活発化

（2）体育遊びの活動　全体のLiとして参加

活動の特色（物（課題） 人一人）の活動

活動場面（おおぜみさん）	関係構造図	考察
		課題の提示説明、課題を媒介にA，B，C各Gのメンバーは共通体験。課題共有活動が状況をつくる。集団枠は明確にならない。全体集団各集団によって担われている

Liとして集団認識の変化 —— 各集団を枠的にとらえない，個の関係力動運動としてとらえる。

集団間関係における集団技法 —— 物媒介体験共有化の技法

自集団の変化 —— 共有体験の楽しさ，喜こびの声が大きくなる。共に，「よかった」の体験。

合同集団活動において、成立，展開，発展する関係体験、関係指導技法を保育者は、社会関係状況においてどのように活用していくか今後の課題である。

※　お茶の水女子大学児童臨床研究室における1976年度の活動

NII-Electronic Library Service